

（1面から続く）



尾関教育委員

「勤務時間が長いマスコミで、35年間働いていました。新聞記者時代の勤務時間のピークである社会部、警視庁記

「勤務時間管理の概念とはほど遠かった」と回顧。新聞記者として勤務されていた、尾関謙一郎教育委員に、教員の長時間勤務を是正していかなければならないという、強い思いを語っていただきました。

市立学校教員の長時間勤務を減らしていきましょう

①面から続く
校導入の成果と課題について
のヒアリングの実施・時間外
緊急連絡の事例について情報
収集 ④「東久留米市立学校
部活動ガイドライン」(平成31
年1月の導入：部活動指導員
の活用 ⑤学校管理職及び教
員に対して、働き方改革に係
る研修会の開催による意識改
革の推進：令和元年5月には
全教職員を対象に「本気で進
める学校の働き方改革」講演
会を開催 ⑥学校支援室の強
化：教員が日常的に活用でき
る指導資料をデータ収利活用
に資する運用を行う ⑦学力
パワーアップサポーターの全
校配置(週5日×3時間)
⑧スクール・サポーター・スタ
ッフの活用：印刷・小テスト
の採点などの学校の手伝い、
1学期中に市内小中学校全校
配置予定 ⑨市教委から学校
への調査・照会事務の軽減：
調査項目の工夫・調査の一元
化、民間団体等からの各種照
会については教育課程との関
連が図れるものを精選

者クラブでは365日のうちの360日、平日一日16時間の勤務が3年間続きました。経済部に移っても平日は朝10時から深夜1時まで。ニュース部門の取材はそれが常態でしたが、40代半ばは過酷な現場勤務はリタイアするという慣習がありました。日本経済の取材をしているにも関わらず、日本経済を支える一般サラリーマンの生活と縁遠くなり、家庭内の日常も関心がなくなり、社会を支えるのは企業や組織等の経済体制だけなんだと、感覚は「ずれて」いきました。

さて、新聞記者と教員は職業こそ異なりますが、働く楽しみを感じられなくなってしまうような過酷な状況になりがちなところは、よく似ています。学校に長時間いて、自らの子どもや家庭を顧みる余裕がなければ、保護者感覚も含め、現実感のある教育とは遠ざかっていくと思います。『子どもたちのために』という教員の気持ちに頼る教育界と、『社会のために役に立つ報道を』という記者の気持ちに頼るマスコミと似ています。マスコミにおいても社員

の過労死や自殺という痛ましい事故があり、遅ればせながら、働き方改革の時代になり、具体的な方策がとられていきます。今の教員が担っている業務の中に、登下校の見守りや部活動の指導、給食費の徴収・管理などがありますが、この『授業以外』の部分で個々の教員が負える範囲を超えているにも関わらず、本来の仕事である授業の研究や準備に充てる時間を確保するため、教員は長時間勤務での対応を余儀なくされています。地域の方々や自治体とで役割分担できることがあるはずです。決して易しい話ではありませんが、保護者、地域の方

々の理解を得て、三位一体の改革を進めていく必要があるでしょう。教員自身が勤務管理を行うなどして在校時間を短くしていくには、教員が退庁しやすい環境に整えていく必要がありますが、それには何よりも保護者や市民の皆さんのご理解と協力が、とても大きな後押しになります。

『授業以外』のことを縮小していかなるを得ない状況も出てくると思いますが、保護者や市民の皆様のご理解をお願いします。

◇ A教諭に、教員の働き方改革について伺いました。

「眼の前にいる子どもたちのことを考えると、時間がきたから今日はここまで」という区切りをつけるのは、とても難しいです。しかし、自分たちが意識を変えていかなければ、長時間勤務はなくなるなど、ということも分かっています。時間はかかるのだから、と思います。働き方改革を浸透させていかなければなりません。そのほうが、本来、教員がするべき仕事をもっとできるわけですから。」

国、都及び市から委嘱を受けて教育課題の解決や開発を目指して研究するため、「研究推進校」「研究奨励校」などが選ばれています。

研究内容は各教科、特別活動、体力づくりなど多岐にわたっています。今号では市の委嘱を受けた学校と教科を紹介します。

詳しくは指導室 ☎470・7781へ。

〔平成30年度・令和元年度（平成31年度）研究推進校（2年目）〕 ①市立第九小学校（国語） ②市立本村小学校（プログラミング教育） ※東京都教育委員会指定のプログラミング教育推進校を兼ねる

〔令和元年度（平成31年度）・2年度研究推進校（1年目）〕 ①市立小山小学校（キャリア教育） ②市立下里中学校（不登校）

〔令和元年度（平成31年度）市教育委員会研究奨励校〕 ①市立第六小学校（外国語活動） ②市立西中学校（国語「読解力の向上」）

令和元年度（平成31年度）の市教育委員会研究推進校・研究奨励校決まる

この4月から市立学校に新しい職員を迎えました

東京都公立学校教員採用候補者選考（31年度採用）の応募倍率は3・9倍で、2年前の平成29年度採用の7・1倍から大きく下がりました。全国的にも同様の傾向が報じられています。公立学校の教員の長時間勤務が大きな問題となっていて、教職を職業として選ぶことを迷われた方もいらっしゃいます。しかし、今年の4月に東京都公立学校の教員となり、東久留米市立の学校に配属されたフレッシュな先生が18人います（敬称略・行政順）。
たくさんさんの経験を積んで、大きく羽ばたいてください。



岡田 彩佳
(第二小学校)



渡邊 未来
(第一小学校)



丸山 岳人
(久留米中学校)



来光 彩加
(久留米中学校)



弦間 紫乃
(下里小学校)



宮澤 さやか
(南町小学校)



福留 治美
(南町小学校)



本西 正史
(神宝小学校)



会田 恵梨夏
(小山小学校)



清水 祐花
(第九小学校)



片倉 みなみ
(第三小学校)



吉崎 椋平
(第二小学校)



鈴木 啓士
(中央中学校)



宮治 知央
(下里中学校)



下澤 洋平
(下里中学校)



高橋 駿
(南中学校)



光廣 翔
(東中学校)



今野 由香
(東中学校)

【編集後記】小学校でクラスの写真撮影の際、児童の並び具合に気を取られていたのか、池に落ちて足がすぶ濡れになった担任のことが新聞に掲載されていました。濡れたままの姿を気にもせず、写真に写っている担任について、児童が「そんな先生が大好きだ」と。▼先生をテーマにした「日本一短い手紙」のコンクールの大賞のうちの2作品が新聞で紹介されていました。（校長は）毎日校長室で何をしているのか。給食を一人で食べていきみしくないのか小学2年生。「自分は全体の一人。（校長は）自分のことを知っているのかな。いつか見つけてほしい（中学2年生）。子どもと校長、教員との互いを見るまなざしの温かさを感じました。

平成30年度

学力の定着状況の結果まとまる

本市では学力の定着を図るため、国による「全国学力・学習状況調査」、東京都による「児童・生徒の学力向上を図るための調査」及び市の「学力定着度調査」を実施し、結果の概要を公表しています。今号では2月に実施した、市の「学力定着度調査」の結果の概要をお知らせします。詳しくは指導室 ☎470・7781へ。

《市及び全国の正答率をみる》(表1参照)

全国平均と比べると、国語、算数・数学全般において、基礎的な学力を身に付けるために、授業改善と学習の定着が必要な状態にあります。特に、「国語」はその他にも大きな影響を及ぼすことから、十分な手だてが必要です。

《学力の伸びをみる》(表2参照)

2年間の学習指導で、市全体の昨年度の小学校6年生は国語が1.0ポイント、算数が4.0ポイント伸びています。中学校2年生は国語が4.0ポイント伸び、数学は横ばいでした。本市の学力向上に向けた取り組みは、現在の方向性で進めていくことが望ましいと考えられるため、内容を充実させて継続していきます。

なお、市内の小学校では国語で8.0ポイント、算数で12.0ポイント伸びた学校や、中学校では国語で8.0ポイント、数学で11.0ポイント伸びた学校がありました。学校ごとの取り組みについて成果が出ていることについては、市教育委員会の指導室訪問などの場を使って全校で共有し、各学校に伝えることにより、学習指導力の向上を図っていきます。また、小学校第6学年の場合は調査結果をここで終わりとせず、市内の中学校に進学する子どもたちの場合は学校ごとに情報提供しており、入学してくる子どもたちに向けて、適切な学習計画が組めるように情報提供しています。

今後も、教育委員会では、個に応じ、課題に配慮して学習指導を進めたり、児童・生徒の発達段階に応じて、基礎的な学力を見に付けるなどし、系統的に学習活動を進めるようにしていきます。また、家庭学習も学習の定着度を高めるために重要です。学校と家庭で連携をとって進めていきたいと思います。

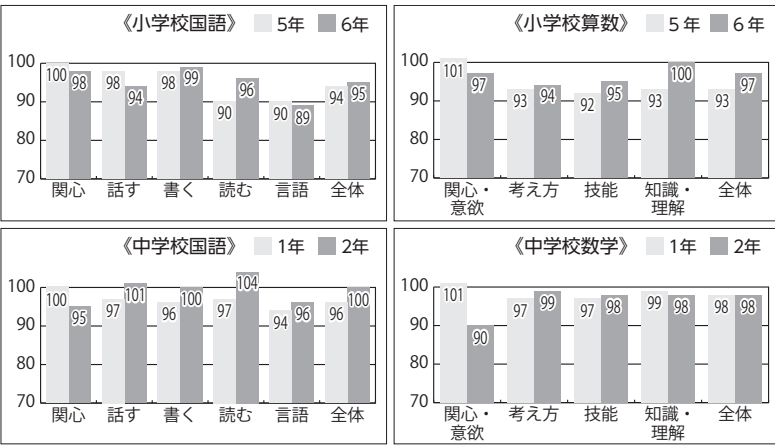


表1 平成30年度東久留米市「学力定着度調査」結果（市及び全国）

※平均得点率（％）（ ）内は全国

	小学校 第2学年	小学校 第4学年	小学校 第6学年	中学校 第2学年
国語	75.9 (76.9)	64.9 (68.9)	67.3 (71.2)	65.8 (65.6)
算数・数学	72.0 (75.2)	60.2 (66.1)	66.0 (68.2)	60.8 (61.9)

表2 平成30年度 東久留米市「学力定着度調査」結果について 学力の伸び



小学校の伸び率 国語全体 1ポイント上昇 算数全体 4ポイント上昇
中学校の伸び率 国語全体 4ポイント上昇 数学全体 横ばい

★調査概要…小学校第5学年と中学校第1学年は平成29年4月に実施、小学校第6学年と中学校2学年は平成31年2月に実施。小学校は平成29年度の小学校第5学年と平成30年度の小学校第6学年の同一児童の平均点を、中学校は平成29年度の中学校第1学年と平成30年度の中学校第2学年の同一児童の平均点を、それぞれ全国平均を100として指数に換算して伸び率を比較。